

課題歌「月」

〔一 席〕

- 八、 新月の夜にまぎれて人知れずさみしき鬼を胸に棲まはす
三六、 鎌のやうな月冴ゆる夜にひそやかに母はこの世のいのち終へにき

柴田 恭子

鶴見 輝子

〔三 席〕

- 二、 ふるさとの暮しの跡は水の底ダム湖に映る寒月凍てり
二六、 草刈りを終えし野に咲く月見草ひととち一株残せし人に会いたし

西 春彦

三尾 美智子

〔選者推薦〕

- 八、 新月の夜にまぎれて人知れずさみしき鬼を胸に棲まはす
人間という存在の暗部を詠んだ秀作。難しい内容をよく表現し得た。

柴田 恭子

自由歌

〔一 席〕

- 一一、 照らしつつ後を追ひ来る望月を逃れて長きとんねるに入る
夜、一人で歩いていると、月の明るい光が怖いような時がある。逃げ場となった「とんねる」が利いている。

倉坪 芳江

- 八、 朝つゆをやどす木槿の一輪を活けてひとりの膳ととのえる

柴田 恭子

〔二 席〕

- 一〇、 帰りたい記憶の家はどこですか義母の背中に声出さず問う

江尻 恵子

〔三 席〕

- 三四、 一日を魚に遊ばれ帰り来る夏の川原に日焼けせし夫は

和田 操

〔選者推薦〕

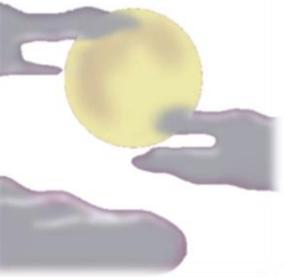
- 七、 不意をつくことにも我を馴れしめて少女は日毎美しくなる
日毎に成長し続ける少女(孫か)を身近に見て、まぶしいものを見守る作者。

堀 甲枝

- 四二、 山毛榉ぶなの樹々根元は雪の溶け初めて春の息吹の在り処示せり

宇都木 慎一

山行の実体験がよく働いている自然詠。春の息吹を実感させる光景です。



「飛騨神岡高校」 入 選

上弦の月が下弦に変わっても二人の写真未だ捨てられず
まだ君は知らないだろう夕方の空に浮かんだ真白な月
満月の欠片をポケットにしまい込み四つに分けて家族へ渡す
満月をみると母を思い出すどちらも僕を見守っている
月あかりに照し出された海の波秘めた思いを静かに運ぶ
満月がキラキラ光り笑ってる空で平和を観察中だ

三年 荒木 健裕
三年 波岡 梨乃
三年 和仁 大志
一年 青山 椋
一年 小木曾 都
一年 米澤 太志朗



「吉城高校」 入 選

下校時の僕を見守るお月さま今日の不安を消してくれませ
夜空見て明日への願い言ってみる少しの期待に少しの不安
横顔のすてきな君の横に座し弓手を握る星月夜の下
三日月はどんな月よりきれいだねすつきりさわやかするどいカーブ

二年 松葉 春汰
一年 牛丸 祐菜
一年 林 愛友那
一年 堀 怜音



「高山西高校」 入 選

秋の夜君を照らすよ月明かり一夜かぎりのスポットライト
コンビニで買ったコーヒーふとのぞく砂糖と共にとける月光
青い空左に太陽右に月ふと気が付いた小さな幸せ
月満ちて命も満ちるこの星に海の底では珊瑚の産声
月齢を天気予報と見比べて満月の日待つあと何日か

三年 小笠原 槇保
二年 岩野 芽依
一年 堀之上 さやこ
一年 和田 鈴太
一年 垣内 咲乃

